

匝瑳市消防委員会
— 会議結果概要 —

○開催日時 平成26年10月14日（火）午後1時30分～午後2時30分

○場 所 匝瑳市役所議会棟2階第2委員会室

○出席委員 第1号委員 武田光由、行木光一
第2号委員 石田進康、秋山忠史、山崎克男
第3号委員 畔蒜晴夫、及川重幸、太田康晴、子安馨、
鈴木淳一

（名簿順）

○欠席委員 第1号委員 浪川茂夫
第3号委員 藤井嘉徳

○市出席者 太田安規市長

（事務局／総務課）渡辺則孝課長、佐久間三喜男副主幹、椎名貴之副主査

1 開 会

2 市長あいさつ

太田安規匝瑳市長あいさつ

3 委員紹介

第1号委員武田光由委員から席順に自己紹介。

渡辺課長から事務局員紹介。

4 仮議長選出

互選により畔蒜晴夫委員を選出。

5 議 事

(1) 委員長の選出について

互選により及川重幸委員を選出。

(2) 消防団の現状について（報告）

(ア) 組織について

<事務局説明>

資料に基づき説明。

(イ) 報酬、費用弁償について

<事務局説明>

資料に基づき説明。

主な意見、質問及び回答等

○報酬について、近隣市町と比較してどういう状況か。

<事務局>

平成24年度に団長5千円、副団長以下1千円の引上げを行っているが、団員の報酬は1万6千円となっており、県内で最も低くなっている。

なお、近隣市町の団員の報酬は横芝光町が1万7千9百円、旭市が1万7千円となっている。

○報酬を上げる見込みはあるか。

<太田市長>

県内で最も低いのは厳しい。予算編成の問題もあるが、積極的に引上げを検討していきたい。

<事務局>

国から地方交付税は配分されているが、すべてが団員の報酬に配分されるわ

けではなく、これまでは団員の装備等の充実に配分してきた。これからは装備とのバランスや予算状況を考慮しながら報酬の引上げを検討していきたい。

＜畔蒜委員＞

匝瑳市の装備は他市町と比べ、旧八日市場市時代からかなり予算をかけてきたため、だいぶ充実している。今後は報酬の調整も必要ではないか。

○団員の定数は国で決めるのか。それとも市で決めるのか。

＜事務局＞

消防団は国の消防組織法に基づき設置され、団員数については動力ポンプの種類ごとの隊員数や大規模な災害時等における住民の避難誘導に必要な団員数等を勘案して決めることになっているが、定数は市の条例で定めることになっており、現在の定数は694名、団員数は670名となっている。

ちなみに、近隣市町の団員数は、銚子市が541名、旭市が902名、山武市が833名、多古町が511名、横芝光町が503名となっている。(平成26年4月1日現在)

(ウ) 消防車両・施設等について

＜事務局説明＞

資料に基づき説明。

主な意見、質問及び回答等

○自然災害等への対応として、チェーンソーやAEDを整備する見込みはあるか。

＜事務局＞

昨年12月に「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」が施行され、今年2月には「消防団の装備の基準」が改正された。まずは常備消防である匝瑳市横芝光町消防組合の意見を伺いながら、消防団の幹部役員会で協議したい。

＜武田委員＞

山間部の分団はそういった装備があると特に助かると思うので、ぜひ検討し

ていただきたい。

(3) 消防団事業の実施状況及び実施計画について（報告）

＜事務局説明＞

資料に基づき説明。

(4) その他

主な意見、質問及び回答等

○現在、旧八日市場地区では1地区1分団で、旧野栄地区では1地区2分団で運営している。平等性を考慮したらどちらかに統一するべきではないか。

＜事務局＞

今年度から旧野栄地区の分団再編に取り組んでおり、将来的には1地区1分団に統一する予定である。その上で機能別消防団・分団も検討していきたい。

＜太田委員＞

機能別消防団・分団は難しい点もあるので、簡単な方法で取り組んでみてはどうか。

＜事務局＞

他市の先進事例等を参考に検討していきたい。

○市内の防火水槽について、金網を屋根にしたいといった要望はどうすればよいか。

＜事務局＞

防火水槽の有蓋化については、地元の分団から要望をあげてもらい、対応しているが、屋根やコンクリートの蓋は工事費が高いため、危険度や優先度を考慮しながら実施している。

＜行木委員＞

要望の吸上げが不透明である。

＜事務局＞

地元の要望がきちんと反映されるよう消防団の幹部役員会で徹底していきたい。

6 閉 会